

周辺市議会が国に意見書を提出

厚木基地周辺の騒音対策を考える会(中屋秀夫会長)は、本年8月、同基地周辺において長年の問題となっている80W及び75W区域の告示後住宅並びに80W及び75W区域の外郭防音工事の実施について、周辺市(大和市・綾瀬市・藤沢市・座間市)の各市議会あてに陳情を行いました。

これを受け、各市議会では、9月定例会においてそれぞれ審議が行われ、全ての議会において全会一致により陳情の採択及び国に対する意見書の可決がなされました。

これらを踏まえ、9月から10月にかけて各市議会から関係先(衆・参両議院議長、内閣総理大臣、防衛大臣等)あてに、意見書の送付が行われました。

本年3月の艦載機移駐以降、騒音については一定の軽減が図られつつあるところですが、今後も米軍の運用上の所要如何によっては、再び激しい騒音が撒き散らされる恐れなど、予断を許さない状況に変わりはありません。

このような状況を踏まえ、当協会としても、今般の意見書の内容が一刻も早く国の施策に反映されるよう、引き続き関係団体等と連絡を密にしながら、活動を行っていくこととしています。

(「告示後住宅」、「外郭防音工事」については、次号以降で詳しく解説します)

ベース Q&A

「厚木基地」は存在しない？

Q 存在しないとは、どういう意味でしょうか？

A 自衛隊と米軍の活動拠点ですが、それぞれ「海上自衛隊厚木航空基地」「米海軍厚木航空施設」というのが正式な名称で、綾瀬市の側にあるメインゲートにその文字が掲げられています。

Q 「厚木基地」というのは通称なんですね。

A そうです。また、米軍については、日米地位協定(二国間の条約)に基づき、「FAC3083 厚木海軍飛行場」という呼び名により、その使用が政府間で合意されています。

—— 厚木基地周辺住宅防音工事協力会について ——

当会は、厚木基地周辺に発注される住宅防音工事に関し、関係諸官庁への要請、住民への協力等により、地域の住環境の改善を図ることを目的とする団体です。また、地元住民組織(厚木基地周辺の騒音対策を考える会、厚木基地周辺復旧工事・外郭防音工事促進協議会)や、全国各地に所在する他の基地周辺の防音工事協力会とも連携を図りながら、住民本位の施策の実現を目指した活動を展開しています。

防音工事に関する施策その他

掲載内容についてのお問合せは
(TEL・FAX) 046-261-0799

又は

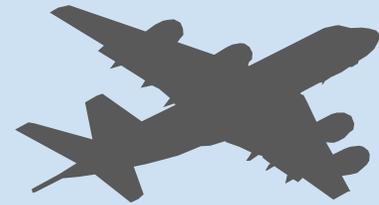
(e-mail) kyouryokukai@daichou.co.jp まで

厚木住防通信 Vol. 1/2018.11

毎月1回・1日発行

厚木住防通信

Vol. 1/2018.11



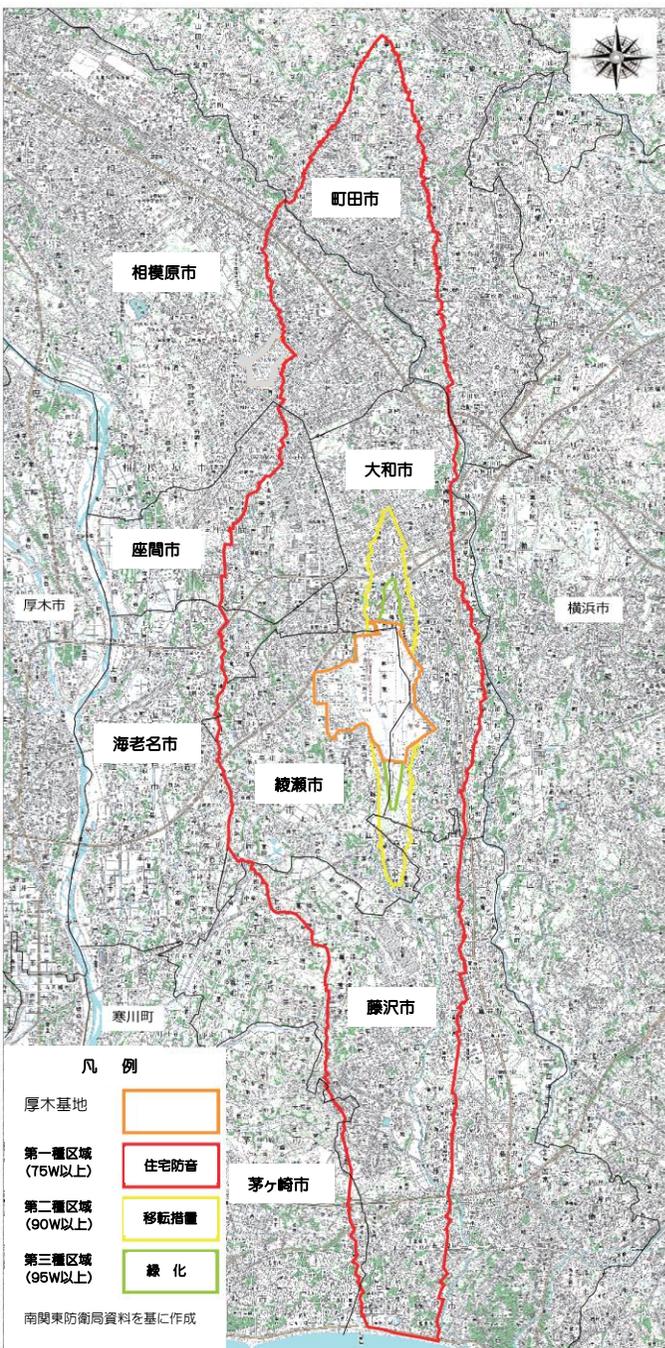
厚木基地周辺住宅防音工事協力会

〒242-0018 神奈川県大和市深見西2-4-14

TEL・FAX 046(261)0799

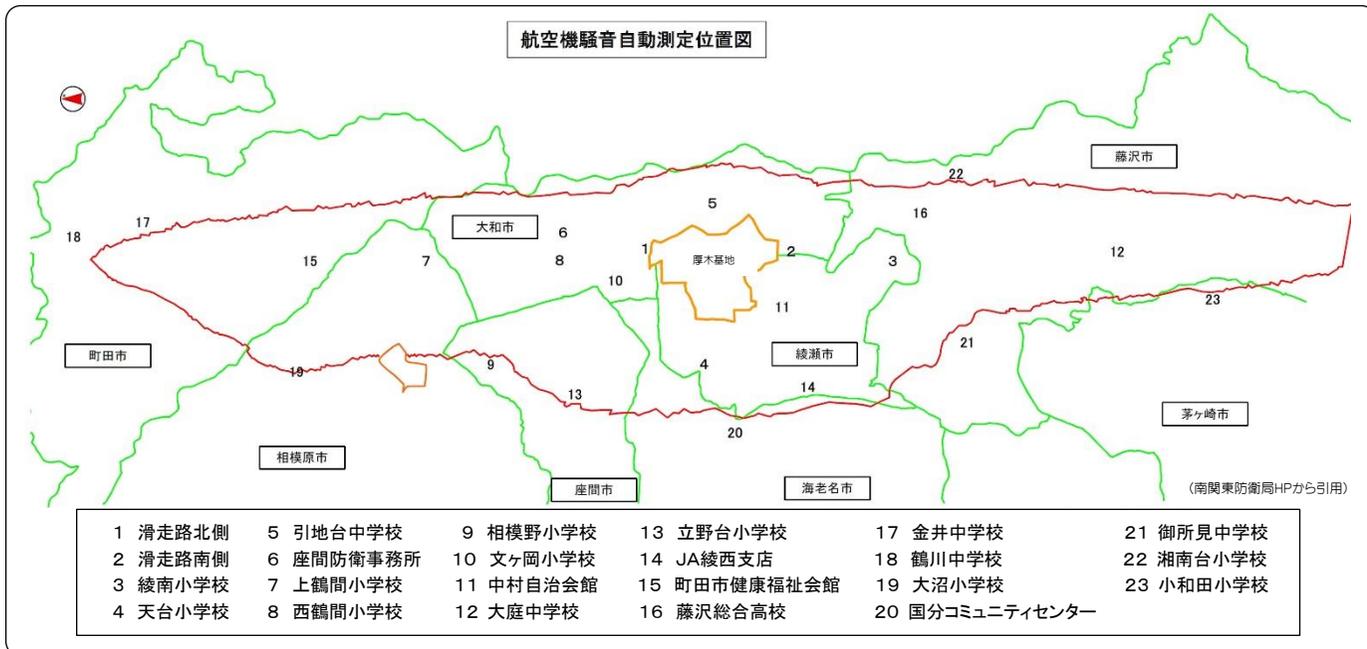
<http://www.daichou.co.jp/cooperative>

住宅防音工事等対象区域



厚木基地周辺における騒音対策の一環として、国は、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第4条の規定等に基づき、騒音度（現在はWECPNL値75以上）に応じた対象区域（左図の赤線内）を定め、当該区域内に所在する一定の住宅の所有者等に対し、住宅防音工事の助成を行っています。

また、基地周辺の23か所に航空機騒音自動測定装置を設置し、“うるささ指数”と呼ばれるWECPNL値やLden（別掲参照）、騒音発生回数といった基礎データの常時測定も行っています。



Key Word

キーワード解説

「WECPNL (W値)」と「Lden」

WECPNLとは、「加重等価継続感覚騒音レベル」の英語 (Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level) の頭文字をとったもので、航空機騒音の「うるささ」を表す国際的な評価指標の単位です。

なじみのない言葉なので難しく聞こえるかもしれませんが、簡単に言うと、騒音を単発的な最大値 (デシベル) だけで評価するのではなく、その時間帯別の発生回数をもとに補正して評価する方式の指標 (単位はW) です。

夜間の騒音をより重視して人の生活に与える影響を評価するため、昼間 (朝7時～夕方19時) の騒音回数に対し、19時から22時までの回数は3倍、22時から朝7時までの回数は10倍に、それぞれ補正を行った上で、1日に発生した騒音の平均量を算出します。

一方、デジタル処理技術の向上により、騒音エネルギーをより精密に算出可能な「Lden (エルデン)」と呼ばれる評価指標が国際的に主流となってきたため、環境省はこれまで採用してきたW値に替えて平成25年4月からこのLdenを導入し、防衛省も以後指定する区域についてはLden (単位はデシベル、W値75はLden62デシベルに相当) により算定することとしています。

Ldenも、時間帯による騒音の感じ方の違いが加味される点ではW値と基本的に同じですが (Lはレベル、dは日中 (daytime)、eは夕方 (evening)、nは夜間 (night) の略)、WECPNLが「最大騒音レベルを調査する」指標なのに対し、Ldenは「聞こえ始めから聞こえ終わりまでに人が受ける騒音エネルギーを測定する」方式の指標であり、飛行場に近き場所では、誘導路上を移動する際に発生する騒音など「地上騒音」も評価の対象となるという点に、WECPNLとの主な違いがあるとされています。